

福岡県

防災講演会 開催報告 ～災害ボランティアセミナー～



令和元年9月3日（火）、J R博多シティ会議室 大会議室にて福岡県、福岡管区気象台と当協会主催による「福岡県 防災講演会～災害ボランティアセミナー～」が開催されました。

冒頭に主催者を代表して、当協会の原田理事長が挨拶し、続いて福岡管区気象台気象台長 倉内 利浩氏による「大雨時の危機感を伝えるための気象庁・気象台の取組み」と題する講演と認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード代表理事 栗田 暢之氏による「シニア世代ができる災害ボランティア活動」と題する講演が行われました。



気象庁観測部で豪雨予測精度の向上に寄与する気象ドップラーレーダーの全国展開、企画課で平成23年台風第12号による紀伊半島の豪雨などを受けて創設された特別警報の導入を担当。気象庁観測部計画課長補佐、仙台管区気象台業務課長、気象庁企画課防災企画室長、航空気象管理官、予報部業務課長などを経て平成31年4月より現職。

講演

13:40～14:40

大雨時の危機感を伝えるための 気象庁・気象台の取組み

福岡管区気象台 気象台長

倉内 利浩氏

過去に発生した豪雨災害の実態を分析・解説する一方、気象庁が配信している防災気象情報について紹介するとともに、警戒の呼びかけの難しさ・課題を踏まえた今後の危機感の伝え方の方向性や取り組み等について講演を頂いた。



昭和39年生まれ。名古屋大学大学院環境学研究科修了。阪神・淡路大震災でコーディネーターとして被災者支援にあたったことを契機に、現在までに約50ヶ所の被災地で支援活動を行う一方、災害に強いまちづくりや人づくりの各種事業にも多く携わる。また、国や自治体などの防災や災害ボランティア等に関する各種委員会の委員も歴任。

講演

14:50～15:50

シニア世代ができる 災害ボランティア活動

認定特定非営利活動法人
レスキューストックヤード

代表理事 栗田 暢之氏

災害現場の想像以上に厳しい生活・居住環境について具体的に説明され、行政、社会福祉協議会（災害ボランティアセンター）、NPO等との三者連携が重要であり、その調整役として活動していることや、今後とも日ごろから防災対策を推進していく中で積極的にボランティア活動に参加していくことが呼びかけられた。